

G OVERNOR'S MONTHLY LETTER

国際ロータリー第2830地区 2025-26 ガバナー月信

No.13
最終増刊号



台北国際大会地区ナイト 6月14日(日)

contents

- 1.ガバナーメッセージ
- 2.台北国際大会2026参加報告
- 6.RYLAセミナー開催報告
- 8.RI第3330地区浄水事業・地区大会参加報告
- 9.東方沖地震義被害対策実行委員会より
- 10.三戸RC創立60周年
- 13.六ヶ所RC創立30周年
- 15.八戸南さくらエイト衛星クラブ創立2周年
- 17.ガバナー月信担当委員所感

よいことのために
手を取りあおう



国際ロータリー第 2830 地区事務所
〒030-0812 青森市堤町1丁目1-23 ホテル青森内
TEL.017-732-2830 / FAX.017-732-2831
E-MAIL rid2830@outlook.jp

ガバナーメッセージ

ガバナー 米谷 恵司

「つなぐ責任、ひらく未来」

国際ロータリー第2830地区の皆様へ

7月を迎え、私はガバナーの任を終え、直前・副ガバナーという立場となりました。本増刊号にあたり、改めて皆様に御礼申し上げるとともに、これからの地区の歩みに思いを寄せて一文をお届けいたします。

6月号において一年の総括は述べさせていただきましたので、ここではあえて過去を繰り返すことは控え、「これから」に焦点を当てたいと思います。

ロータリーの価値は、3Year Rolling Goalsが示すとおり単年度で完結するものではありません。各クラブの活動、会員一人ひとりの奉仕の積み重ねは、目に見える成果以上に、地域社会の中に確かな信頼として蓄積されていきます。そしてその信頼こそが、次の世代へと受け継ぐべき最大の財産であると確信しております。

本年度、地区内ではさまざまな挑戦がなされました。新しい試みは時に戸惑いを伴いますが、その一步一步が確実に地区の可能性を広げています。重要なのは、それらを単発で終わらせるのではなく、いかに「継続」と「発展」へとつなげていくかであります。

特に、会員基盤の充実は引き続き最重要課題であります。これは単なる数値目標ではなく、多様な価値観を受け入れ、魅力あるクラブを創り上げていく不断の努力そのものです。新たな仲間を迎え入れると同時に、「このクラブに所属してよかった」と感じていただける環境づくりが、これから一層求められることでしょう。

また、若い世代との関わり、地域社会との連携、そして柔軟なクラブ運営の在り方など、ロータリーは今まさに変化と進化の過程にあります。その変化を恐れるのではなく、むしろ機会として前向きに捉える姿勢が、これからの地区を形づくる鍵となります。

私は直前ガバナーとして、新たなリーダーシップのもとで展開される地区運営を支えながら、これまでの経験を活かし、必要な場面で助言と後押しを行ってまいります。主役はあくまで各クラブであり、会員の皆様お一人おひとりであります。その力が存分に発揮されることを願っております。

最後に、この一年間、さまざまな場面でいただいたご厚情に改めて深く感謝申し上げます。そしてこれからも、国際ロータリー第2830地区が誇りある歩みを続けていかれることを心より祈念申し上げます。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

台北国際大会2026のご報告

国際大会推進委員長 **最上 伸子**
(青森モーニングRC)

去る6月13日から17日まで台湾の首都、台北市において2025-26年度国際大会が開催されました。台北市での国際大会は1994年以来32年ぶりの開催で、全世界140の国や地域から38,000人以上、日本からは約5,000人のロータリアンが台北に集結しました。

当地区からは会員とご家族を合わせて42名にご参加いただきました。

参加された皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

青森モーニングロータリークラブからは、米谷ガバナー、鈴木パストガバナー始め6名が参加し、4泊5日の楽しい国際大会ツアーとなりました。私にとっては初台湾、初台北！

【いざ台北へ】

6月11日(木)、羽田から約3時間半のフライトで現地時間20時50分、台北松山空港に降り立ち無事に台北入りできました。タクシーで滞在先ホテルへ。

台湾と言えば「暑い！」というイメージでしたが、梅雨時のためか暑さよりもムシムシ感がいっぱいです。ウェザーニュースによると滞在期間中ずっと雨の予報で、翌日は楽しみにしていた九扮・十扮オブショナルツアーなので予報が外れることを祈りつつ就寝。



【九扮・十扮オブショナルツアー】

6月12日(金)、米谷ガバナーと同期の函館亀田RC玉井ガバナーが経営する旅行社主催のOPツアーに参加しました。参加者全員ロータリアンとそのご家族で、終始和気藹々な雰囲気でした。

午前中は、まず台湾屈指のパワースポット「龍山寺(ロンシャンスー)」に行き、その後、辛亥革命・抗日戦争・国共内戦などで亡くなった人々を祀る慰霊施設である「国民革命忠烈祠(ちゅうれつし)」を訪れました。この辺りから小雨がパラついて嫌な予感。



お昼にかけて、世界的にも珍しい“海蝕地形(海の浸食でできた地形)”が集まる自然公園「野柳地質公園(やりゅうちしつこうえん)」に向かいます。ここは台湾北部の海岸近くにあるため海鮮料理店が多く、そ

の中の一軒で海鮮料理ランチ。

いよいよ午後は野柳地質公園を散策し有名な“女王頭(クイーンズヘッド)”などの奇岩を探しに行くというときに雨は本降りに。ガイドさんの勧めに従って近くの土産物店でカラフルな雨合羽(500円)を購入し、公園内を散策しました。

お次は“ランタン上げ”で有名な十扮へ。

線路ぎりぎりに店が建ち並んでいるのも有名ですよね。鎌倉江ノ電の風景に似ていました。大きな赤いランタンの一面に一人ずつ願い事を筆で書いた後、ランタンの中に着火して空に飛ばします。

米谷ガバナーの願い事を、ここでご披露いたします。

米谷ガバナーは、ここでも「会員増強」でした。さすがです。



ますます雨脚が強くなる中、いよいよOPツアーのハイライト「九扮」に向かいます。

九扮の歴史は清朝時代、9世帯ほどの小さな集落であったところで砂金が発見されたことから、日本統治時代に入り採鉱が本格化し、“アジアの金都”と呼ばれるほど繁栄し、映画館、旅館、茶楼、病院などが建ち並ぶ モダンな鉱山都市に成長。第二次世界大戦後、金鉱が枯渇し街は衰退しますが、1989年公開の台湾映画、侯孝賢(ホウ・シャオシェン)監督による「悲情城市(ひじょうじょうし)」のロケ地となったことで再び脚光を浴び、観光地として再生していったということです。映画「千と千尋の神隠し」のモデルとしても有名ですが、これについては宮崎駿監督もスタジオジブリも否定しているようですね。

雨に煙る夕暮れ時の九扮はノスタルジックな佇まいで、映画のワンシーンのようでした。後ろ髪を引かれながら、米谷ガバナーおすすめのお店でパイナップルケーキを購入し、九扮を後にします。

【故宮博物院と友愛の家】

6月13日(土)午前中、台湾ビギナーである私の希望で故宮博物院と台北101を見学した後、南港展示センターに行き国際大会の登録を済ませました。

友愛の家では、まず我が姉妹クラブである川口モーニングRCの展示ブースへ向かいます。なんと日本のクラブで展示ブースを設けているのは川口モーニングRCのみということです。展示していたのは、川口の伝統文化である「鑄べー



ゴマ」と、世界で初めての取り組みだという「メイクアップ御朱印帳」でした。川モニさんの話によると、休憩を取る間もないほどの大盛況で、世界中のロータリアンがベーゴマ体験に夢中になっていたそうです。スマホで簡単にゲームができる今だからこそ、大事にしたい伝統的な遊びの体験ですよね。川モニさんのガッツに感激しつつ、私も初のベーゴマ体験をさせていただきました。初のベーゴマ記録は3秒(コマが回った秒数)でした！



【いよいよ開会式】

6月14日(日)

開会式の会場である台北ドームに向かいます。

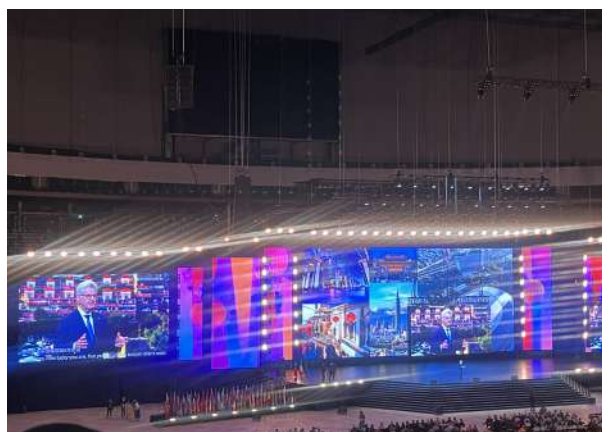
開会式は午前・午後の二部構成で行われ、私たちは午後の部に参加しました。

太鼓・舞踊のパフォーマンスで華やかに開幕し、各国の国旗入場です。私は三度目の国際大会ですが、この国旗入場の場面は毎回、



感動します。世界中のロータリアンが集結している一体感と醍醐味はここでしか味わえません。国際ロータリー会長(フランチェスコ・アレツォ氏)は挨拶の中で、ポリオの資金調達が困難となった現状を延べ、「たとえ世界がこの問題に疲弊して関心を失ったとしても、私たちはポリオ根絶の取り組みを決してやめません。」と語りました。

午前の部では、台湾総統(頼清徳氏)の挨拶もあったようです。頼清徳氏は、この国際大会が「まさに歴史的な意義を持つ出来事」とであると述べたとのことでした。



【地区ナイトで締めくくり】

開会式の途中ではありましたが、地区ナイト準備のため台北ドームを後にして会場に向かいます。地区ナイトの会場は中山区にある第一ホテル内のレストラン「敍香園」です。50年以上の歴史がある伝統的な台湾料理レストランで親睦を深めました。ビールやワインのほか紹興酒をご用意しておりましたが、雨模様の天気で気温が低かったことと開会式会場の冷房が効きすぎて皆さん体が冷え切っていたと見え、紹興酒の熱燗が人気のようにでしたね。



【最後に…】

6月15日(月)9時40分、台北松山空港から羽田へ。

乗り継ぎ時間が5時間ほどあったため、青森空港に到着したのは20時過ぎとなりました。お疲れ様でした。雨に降られたり、スマホをタクシーに忘れたり、1杯のビールを探し求めて歩き回ったり…色々ありましたが、結果オーライ！楽しい5日間をありがとうございました。

最後に、近畿日本ツーリスト青森営業所所長の千葉さん(青森RC)、前任の斎藤さん、地区ナイトのお店選びから現地店舗との連絡調整、オプションツアーなど、きめ細かく対応していただきありがとうございました。

そして、むつ中央RCの柴田さん、最初から最後までアドバイザーとして、お力添えいただき、ありがとうございました。

来年の国際大会は2027年6月26日～30日、スペインのバルセロナでの開催です。

彼の地で、お会いしましょう！

「最善の一手」を考え続けるために —2025-26年度RYLAセミナー開催報告—

2025-2026RYLA委員長

藤川 聡

(青森RC)

2025-26年度RYLAセミナーは、「命を守るリーダーシップ」をテーマに開催しました。

東日本大震災から15年、熊本地震から10年。災害は時間の経過とともに記憶が薄れていきます。しかし、その教訓まで風化させてはなりません。だからこそ今年度は、災害への備えと、非常時に求められるリーダーシップについて、参加者一人ひとりが自分自身のこととして考える機会をつくりたいと考えました。

メインプログラムでは、災害発生時の避難所運営を疑似体験する「HUG(避難所運営ゲーム)」を実施しました。限られた情報や資源の中で、多様な立場の避難者への対応を迫られる参加者は、正解のない課題に向き合いながら、何度も判断を重ねていきます。その姿から私が改めて感じたのは、リーダーシップとは、一人が答えを示すことではなく、多様な意見に耳を傾け、仲間とともに最善の一手を考え続けることなのだということでした。



開催にあたり、NPO法人青森県防災士会の皆様には多大なるご協力をいただきました。特に、むつロータリークラブ会員であり、同会代表理事の峯 雅夫会員には、HUGの運営に加え、「災害時におけるリーダーシップとは」と題した講演もお引き受けいただきました。参加者は、災害時に必要な知識だけでなく、人を思いやり、冷静に判断することの大切さを学ぶ貴重な機会となりました。

実は、開催まで半年を切った頃、プログラムの方向性は決まっていたものの、その中心となる内容が定まらず模索を続けていました。そんな中、偶然、峯会員へ相談する機会があり、そのご縁が今回のHUGとの出会いにつながりました。

今回のRYLAを振り返り、改めて感じたことがあります。それは、ロータリーには多様な経験や専門性を持つ仲間がおり、一人で悩むよりも相談することで、新しい発想や解決策が生まれるということです。今回のRYLAは、まさに「ロータリーだからこそ実現できたRYLA」でした。

災害を実際に体験することはできません。しかし、疑似体験を通して「自分ならどう判断し、どう行動するか」を考えることは、いつか本当に誰かの命を守る力につながるはずです。

リーダーシップ 災害対応で養う 国際ロータリー 若手育成の機

青 森

本県を区域とする国際ロータリー第2830地区はこのほど、青森市の青森立大学で2日間にわたり、若い世代のリーダーを育てる取り組み「RYLA」を行った。20～30代を中心に25人が参加。本年度は災害時の対応をテーマに、避難所運営の模擬体験や防災士の講演を通じてリーダーシップを養った。

参加者は、避難所運営ゲーム「HUG(ハグ)」を通じて、正解のない状況下で素早く答えを出さなければならぬ状況を経験した。さまざまな境遇の避難者が押し寄せたり、突発的な事態が発生したりする中で、周囲と協



RYLAの感想を述べる参加者

力しながら考えた。また、県防災士会の峯雅夫代表理事が、リーダーシップの在り方について講演。日頃から地域のために何ができるか考えることが、災害時の備えにつながると説いた。

藤川聡・RYLA委員長は「今年は東日本大震災から15年、熊本地震から10年の節目の年。自助・共助の心を持ち、今後に役立ててほしい」と語った。(海野良祐)

東奥日報6月25日掲載

災害時に命を守るため、その場で何が最善の一手なのか。答えは一つではありません。だからこそ、平時から考え、学び、仲間と議論を重ねることが大切です。

今回のRYLAで育まれた学びや仲間とのつながりが、参加者一人ひとりの未来、そしてそれぞれの地域社会の力となることを心から願っています。

最後に、本プログラムの開催にあたり、多大なるご協力をいただいたNPO法人青森県防災士会の皆様、RYLA委員会の皆様、地区内クラブ会員の皆様、ご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。また、本プログラムの趣旨にご理解をいただき、取材・報道を通じて活動の様子を広く発信していただいたRAB青森放送、ABA青森朝日放送、青森ケーブルテレビ、東奥日報社の皆様にも、心より御礼申し上げます。



タイ3330地区浄水設備整備事業 (グローバル補助金事業)引渡式・地区大会

ロータリー財団委員 佐藤 健一
(青森RC)

去る6月23日から29日までタイ南部3330地区における小学校等への浄水設備整備並びにトイレ改修の事業の現地視察、引渡式に参加してきました。現地RC及び地区財団委員長等も同行し、学校・教育委員会・行政・子供たち・地域住民から歓迎・感謝を受け、実際に浄水設備が正常に稼働し、適切な管理運営体制が整えられていることを現地で確認して参りました。

現地日程：2026年6月24日～27日

訪問先：タイ王国ナコンシータマラート県

①ワット・マハータート学校 水処理・給水設備、トイレ 事業費約330万円

②カオパン・クライ学校(中・高) 水処理・給水設備、トイレ 事業費約180万円

参加者：佐藤健一(青森RC)、竹島直樹(十和田東RC)、石川佳共子(青森RC)、
伊藤幸生(青森RC)

また、26～27日は3330地区大会が開催され、工藤武重PGが米谷ガバナー代理として壇上で挨拶し、3330地区ガバナーとプレゼントの交換を行った。同地区の明るく闊達な大会運営は我々にとっても大いに参考となりました。



青森県東方沖地震被害対策実行委員会からの お知らせ

青森県東方沖地震被害対策実行委員長 **松山 隆志**
(青森RC)

2025年12月8日に発生した青森県東方沖地震により被害を受けられたメンバーの方々に心よりお見舞いを申し上げます。

地区では、その後の調査によりロータリーメンバー及びその関係事業所の方々が大きな被害を受けておられるのを受け「被害対策実行委員会」を組織、状況の把握と支援の準備を進めるとともに、ガバナー会を通じて支援をお願いして参りました。

この度、各地区より総額 28,994,460円もの温かいご支援を頂戴することが出来ました。

ご支援いただきました全国のロータリアンの方々に心より感謝申し上げます。

当委員会では、再度に渡る調査を基にお見舞い金として分配額を決定、該当クラブに対して速やかに送金することに致しました。

被害を受けた皆さまが一日も早く安心した日々を取り戻されますようお祈りし、ご報告いたします。



三戸ロータリークラブ 創立60周年を祝う会

5月20日(水)の例会は、日時と会場を変更し5月23日(土)午後4時から、住谷野「鴛鴦殿」で「創立60周年を祝う会」として開催した。

当日はお客様、地区内外のロータリアン総勢100名が出席し、三戸ロータリークラブの創立60周年を祝っていただきました。

◆ごあいさつ

三戸RC創立60周年実行委員長 坂本 勝克

本日は三戸RC創立60周年を祝う会に、多くの皆様にご出席いただき開催できますことを、会員を代表し心から感謝とお礼を申し上げます。

ここで、三戸RCの60年を振り返って見たいと思います。当クラブは1965年(昭和40年)6月26日にスポンサークラブ、青森RC、八戸RC、八戸東RC、福岡岩手RC(現二戸RC)の四クラブ立合いのもと発会式が行われております。

次の週ロータリー新年度の7月1日(木)に、第1回の例会がスポンサークラブから、ビジターとして多数の会員出席のもと開催されております。以来60年の歴史を歩んで来た当クラブは、常に「奉仕の理想」のもと様々な奉仕活動を行ってきました。

特筆したいのが創立もない昭和41年2月4日、三戸RCが提唱・後援し、三戸町、旧南部町・田子町の三町で、県内初めて行われた第1回の「立春式」であります。現在は県内外各地で名称を立志式と変えている地域もあるようです。

また、三戸RCと言えば青少年交換と言われ、受入学生27名、派遣学生29名をかぞえております。その青少年交換事業が縁で、三戸町とオーストラリア・タムワース市と2001年(平成13年)姉妹都市の締結をすることが出来ました。

中学生による海外研修派遣も、タムワース市の大きなお心のもと、実施できていることは当クラブの誇りでもあります。

この二つの事業をもって言える事は、三戸RCは一貫して青少年育成に力を注いできた証しでもあると思います、先輩会員に対し深甚なる感謝を致します。

尚、本日で出席いただいております、太子食品工業株式会社工藤社長様のご厚意で、お土産をご用意して

おります。工藤社長様にはこの場から厚くお礼申し上げます。

今年度のRIテーマ「よいことのために手を取り合おう」を心に、会員一同ロータリー活動に邁進して行くことを、お誓い申し上げて挨拶いたします。

◆歓迎のことば

三戸RC会長 工藤 光行

本日はお忙しい中「三戸RC創立60周年を祝う会」に、ご臨席賜り誠にありがとうございます。長年にわたり三戸RCを支えてくださった、全ての会員の皆様と地域で活動を応援してくれた、多くの方々に心から感謝の意を表します。

三戸RCは現在会員7名の小さなクラブですが、顧みますと60年という歴史の中で、数えきれないほどの奉仕活動や、社会貢献に努力を傾けて参りました。

現在はR財団地区補助金を活用し、2010年から「北奥羽少年剣道大会」の支援プロジェクトを立ち上げています。この大会は当クラブのチャーターメンバーの故松尾市兵衛氏と、私の剣道の恩師故村井安五郎範士先生により創設されました。

秋田・岩手・青森の三県にわたる少年剣道の振興と、青少年の健全育成に寄与して参りました。今後、三戸RC青少年育成委員会の事業として支援・協力し、地域社会に貢献していく所存であります。

また、「桜の町」三戸のイメージアップにと思い、三戸RC創立55周年と三戸学園創立10周年を記念し、2021年から4年間「小中一貫三戸学園」に、オオヤマ桜45本を子どもたちと一緒に植樹しました。

これからも私たちロータリアンの目指すべき道と、心は変わることはありません。創立60周年を機に思いを新たにし、ロータリーの原点に立ち返り、クラブ、地域、地区、日本として世界とのつながりを大切に、友情と親睦を深めて「心一つ、広がる、まわるロータリー」で邁進する所存でございます。

本日ご出席の皆様のご健康とご多幸、そしてRCの更なる発展を心よりご祈念し、歓迎のご挨拶いたします。





六ヶ所ロータリークラブ 創立30周年

六ヶ所ロータリークラブ創立30周年記念事業実行委員長 小泉 陽大

国際ロータリー第2830地区六ヶ所ロータリークラブは、2026年4月2日皆様のご支援の下30周年を迎えることができました。

6月6日には、30周年記念式典並びに祝賀会が、米谷ガバナーをはじめ多くのロータリアンと六ヶ所村長橋本様をはじめとするご来賓の方々のご臨席の下、和気藹々の雰囲気の中開催されました。

時節柄で多用のところ誠にありがとうございました。

六ヶ所ロータリークラブは、28名のチャーターメンバーでスタートし現在は会員数37名となり、地区内で会員数が減少しているなか、少しずつではありますが毎年会員数を増やしております。

会員を増やすことは、クラブの知見を広げ多様性を推進し地域に開かれたロータリーを築くことに繋がると考えており、30周年を機に引続き会員増強に努めてまいります。

30周年記念事業では、青森県立六ヶ所高等学校と『キャリア教育支援に関する連携協定』を締結いたしました。

当クラブは、20年前に10周年記念事業として教育支援事業を立ち上げ、交換留学生プログラム、職場体験学習、青少年野球大会、卓球大会など一貫して青少年健全育成と教育支援に取り組んできており、この度30周年を機に、更に当クラブの持つコンテンツを活かすべく、協定締結と相成ったところでございます。

六ヶ所高等学校は村内唯一の高校であり、これまで多くの優秀な人材を輩出しており村にとってなくてはならない学校であります。

これからも地域を支える人材育成の一助になれるよう、学校と連携し、『資格取得』『起業家育成』などに取り組んで参る所存でございます。

六ヶ所ロータリークラブは、『地域に開かれたクラブ』として50年、100年と歩んで参ります。地区内各クラブにおかれましては、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。





八戸南さくらエイトロータリー衛星クラブ 創立2周年記念例会

日時:2026年6月19日(金)

場所:グランドサンピア八戸

八戸南さくらエイトロータリー衛星クラブ 議長 菊地 倫子

去る6月19日、八戸南さくらエイトロータリー衛星クラブ創立2周年記念例会をグランドサンピア八戸において開催いたしました。

当日は米谷ガバナーをはじめ親クラブであります、八戸南ロータリークラブの皆様、新入会員の皆様にご出席いただき、創立2周年という節目を迎えることができました。

例会では、米谷ガバナーより「衛星クラブの可能性」～自分の可能性に気づく30分～をテーマに卓話をいただきました。

卓話では、ロータリーの基本理念や、ロータリークラブと衛星クラブの違いについて、分かりやすくお話しいただきました。その中で、「衛星クラブはロータリーの未来形であり、スピードボートのような存在」という言葉が特に印象に残りました。大型船のように時間をかけて進むのではなく、若さや柔軟性機動力を生かし、新しい発想で地域のニーズに応えていくことが衛星クラブの大きな役割であることを学びました。

また、米谷ガバナーの地区方針である「不易流行」についてもお話がありました。変えてはならないロータリーの理念や奉仕の精神を大切にしながらも、時代の変化に合わせて活動の形を柔軟に変えていくことの重要性を改めて感じました。

創立当初は「ロータリーとは何か」を学ぶことから始まった私たちですが、今回の卓話を通して、一人ひとりが自分自身の可能性に気づき、その力をクラブ全体の可能性へとつなげていくことの大切さを再認識しました。

創立2周年という節目を迎えた今、これからは次の世代の会員とともに、衛星クラブならではの可能性を信じ、地域に貢献できるクラブを目指して歩んでいきたいと思います。

例会終了後は、食事を囲みながら親睦を深め、終始和やかな雰囲気の中で交流を図ることができました。最後は「手に手つないで」を全員で行い、創立2周年記念例会を閉会いたしました。

結びに、創立3年目を迎える八戸南さくらエイトロータリー衛星クラブが、一步一步着実に歩みを進めていきますよう、今後とも皆様方のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



ガバナー月信 担当委員所感

石川 佳共子（青森RC）

米谷年度のガバナー月信を担当させていただき、みなさまのおかげでよい経験をさせていただきました。

心より感謝申し上げます。

これからも、我が2830地区が益々発展しすべてのロータリアンの満足度が上がりますよう祈念しています。

日下 稔（青森RC）

一年間、ガバナー月信の担当委員として貴重な経験をさせていただき、心より感謝申し上げます。

毎月の締め切りに追われながらも、地区の活発な奉仕活動や会員の皆様の熱い想いを文字通り「形」にしてお届けすることに、大きな使命感とやりがいを感じる日々でした。

拙い運営ではございましたが、皆様の温かいご寄稿と多大なるご協力のおかげで、無事に最終増刊号までバトンを繋ぐことができました。

この活動を通じて得た多くの学びと絆を糧に、今後もロータリーの発展に尽力してまいります。一年の長きにわたり、本当にありがとうございました。

蒔苗 亜希子（青森北東RC）

米谷年度の地区委員と共にガバナー月信の担当委員を承りまして、いたって些少なお手伝いではありましたが貴重な機会を頂きまして誠にありがとうございました。

今後とも米谷ガバナーとご関係の皆様の今後のご健勝とご繁栄と、ロータリークラブの益々の発展を祈念いたします。

